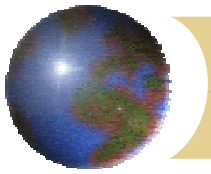


地域のユビキタス・ネットワーク社会とは何か

2003年5月22日

地域情報化全国セミナー2003・おだわら

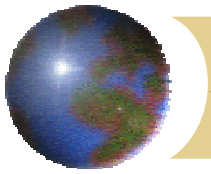
東京大学 田中秀幸(tanaka@isics.u-tokyo.ac.jp)



= 地域の「知恵」を活かせる社会

- ユビキタスで、より「つながり」やすくなる
< 「知恵」は「つながり」の中で生まれる >
(例) 生活の工夫、商売の工夫
- ユビキタス・ネットワークは、まちづくりの新しい
道具
< 地域の創意工夫が実現しやすくなる >
(例) eまちづくり

ただし、この社会を実現するには課題がある。



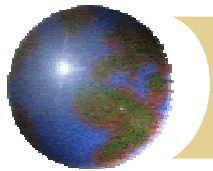
課題1: 橋渡し役 (結節点、ノード)

- 開かれた「つながり」の形成には、橋渡し役が必要。
 - ・信頼のおける橋渡し役
 - ・行政負担の可能性
 - ・多様な「つながり」の形成

行政

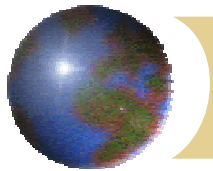
N P O

民間企業



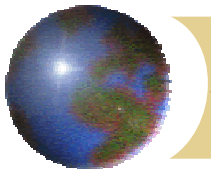
課題2：インフラ

- ユビキタス・ネットワークを実現するインフラが必要
 - ・情報通信ネットワーク・インフラ
(帯域の確保、地域間格差の是正)
 - ・情報セキュリティ・インフラ
(本人確認・認証、コスト負担の問題(商店街等地域事業者を含む)、データ・センターの活用)



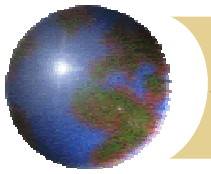
課題3：自律的な発展の仕組み

- 情報通信分野の技術革新はまだまだ進む
インフラなどの陳腐化の問題
- 他方、公的負担の限界。民間主導の原則
- 変化しつづけるユビキタス・ネットワーク環境に、
地域が自律的に対応しながら発展できる仕組み
が必要。
(いかにビジネスを取り込むかが重要な視点)



進化しつづける地域社会へ

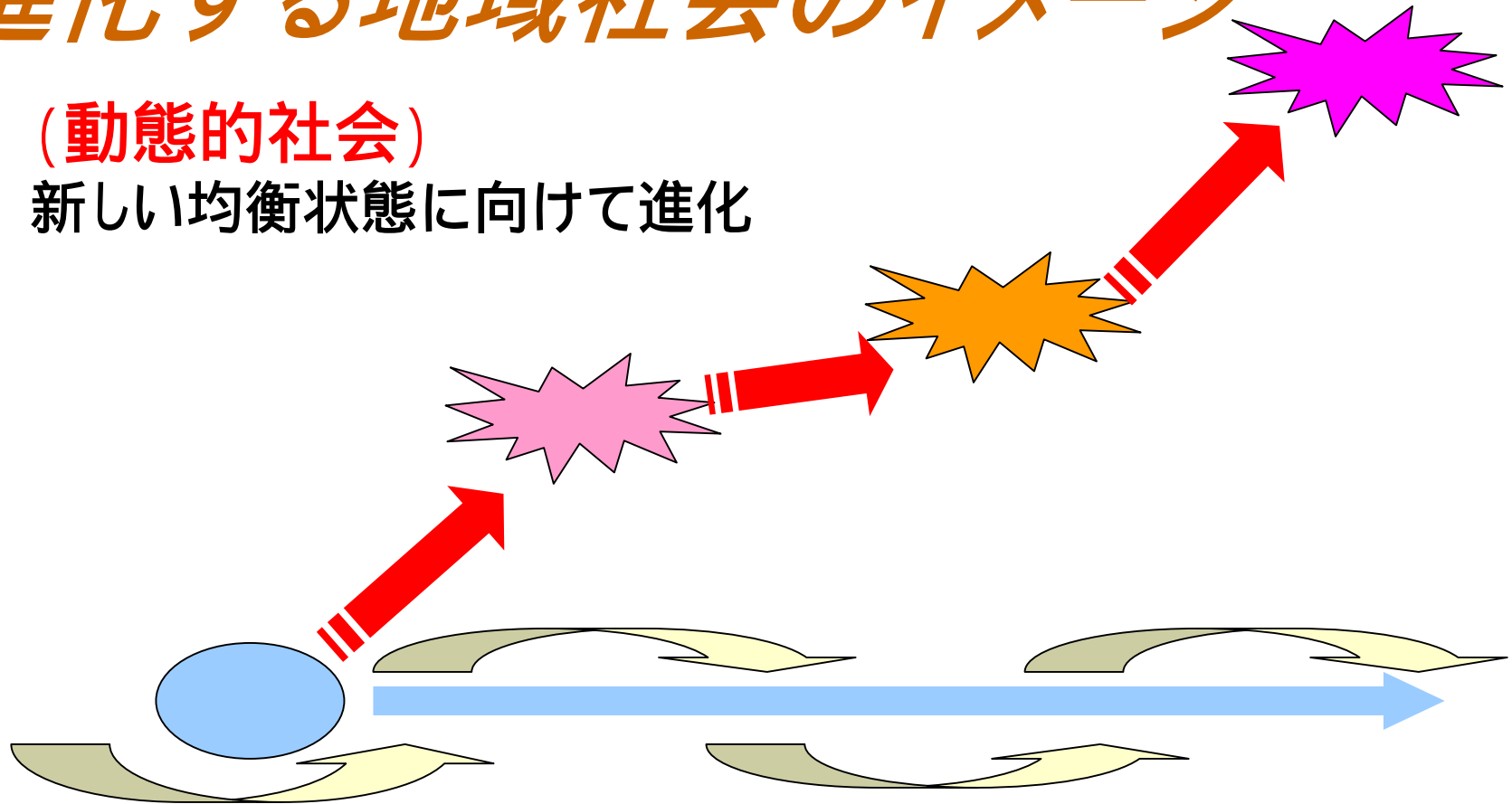
- 自律的にユビキタス・ネットワーク社会を実現するには、地域の明確な将来像と取り組みが必要（市場メカニズムだけでは実現できない）。
- 「技術ありき」の発想ではない。同時に、「需要ありき」の発想でもない。
- 地域の「知恵」を生かして、地域社会が「進化」しつづけることが重要。（ある均衡状態にとどまって循環する（静態的社会）のではない。たえず、新たな状態を目指す、動態的社会の実現）



進化する地域社会のイメージ

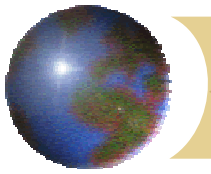
(動的な社会)

新しい均衡状態に向けて進化



(静的な社会) ある均衡状態で循環

時間



ユビキタス・ネットワーク社会の 「鎖状リンク・モデル」

